TOPICS

最終段階に入る 下院の憲法論議

トルドー首相が昨年十月議会に上程した「英国領北アメリカ(BNA)法」のカナダ移管と人権憲章の制定を求める決議案は、上下両院憲法問題特別委員会の報告書が二月十七日に提出されたことにともない、下院における最終論議が始まった。

「英国領北アメリカ法」は、一八六七年にカナダ連邦を発足させた法律で、英国議会によって制定された。一九三一年にカナダの主権が完全に認められたが、憲法修正の方法についてカナダ国内で中々合意が得られないため、同法はカナダの要請により英国議会の手に残された。そこで、トルドー首相は、この変則的な形を廃止してカナダで同法が修正できるようにする、すなわち同法のカナダ移管を提案した。同時に、これまで認められている諸権利に、すべての連邦機関における英仏両語の平等性と英語もしくはフランス語で教育を受ける権利の保障などを加えた権利憲章の条文化も提案している。

決議案の提出後、下院で論議が開始され、上下両院特別委員会の設置となった。上院議員十八、下院議員十五人からなる特別委員会は、千人近くの個人、三百のグループから意見を聴取し、審議を重ねた結果、原住民の諸権利の条文化、憲法会議への原住民の参加、非再生天然資源の開発、保護、管理に関する独占的州権の条文化などを修正事項として承認した。

「六月のユリ」が課題図書に

カナダ在住の児童文学作家バーバラ・スマッカーさんの著書「六月のユリ」(ぬぶん児童出版刊、いしいみつる訳。原名Underground to Canada)が、第二十六回青少年読書感想文全国コンクール（全国学校図書館協議会、毎日新聞社共催）の課題図書に選ばれ、好評を博している。

この本は、一八五〇年代に二人の黒人少女が米ミシシッピーの農園から、逃亡奴隷を助けてカナダへ送る地下組織「地下鉄道」に参加した人々の献身的な協力を得てカナダにたどりつく、苦難の旅を描いた感動的な物語である。

海底資源開発技術展を開催 六月にハリファックスで

カナダ東海岸沖では、一九七九年以来相次いで海底油田やガス田が発見され、経済的大発展が期待されているが、この東岸のノバ・スコシア州ハリファックスで、六月二十二日から二十四日まで、海底資源の探査、開発、採取、精製、輸送、マーケッティングなどに関する最新技術の展示と技術交流会議が開かれる。

「カナダ海底資源博覧会（COREE）」と称するこの催しには、二百以上のメーカーが新鋭機器を展示することになっており、世界各国の政府・民間から石油工学、地質、化学工学、物理探査、海上建築、海洋工学、電子工学などの専門家やその他の石油開発関係者約五千人が出席するものとみられている。

カナダ炭の対日商談相次ぐ BC州のクインテット社など

カナダと日本の間で、石炭供給に関する大型商談が相次いでいる。

まず一月末には、ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバーのクインテット・コール社およびバンクーバーのテック・コーポレーションが日本の鉄鋼業界に対し、一九八三年から十五年間にわたりそれぞれ年間六百万トンおよび百七十万トンの原料炭と一般炭を供給する契約を結んだ。輸出総額は七〇億から八〇億ドルと想定されている。

この契約により、BC州北東部に世界最大の原料炭炭鉱が開発されることになり、カナダ連邦政府、BC州政府では約七億ドルをかけて鉄道や大型港湾施設の建設を進める計画だと報じられている。

またオンタリオ電力公社に年間二百万トン、西ドイツに年間約五十万トンの火力炭を供給しているエドモントンのラスカー社でも、日本のセメント会社や電力会社と長期契約を結び、火力炭の輸出を開始した。供給量は段階的に増加され、一九八三年末には年間百万トン台に達することになっている。

さらに三井物産と鉄鋼七社は、アルバータ州グレッグ・リバー地区で原料炭を開発する一億八千万ドルのプロジェクトに資本参加する商談をまとめた。日本側は開発費の四〇パーセントを負担し、二百十万トンの原料炭を引取ることになっているという。

七月から「カナダ現代美術展」

過去八〇年間のカナダの美術作品約百点を集めた「カナダ現代美術展」が、東京国立近代美術館(七月九日～八月二日)を皮切りに、北海道立近代美術館（八月二十九日～九月二十日)、大分県立芸術会館（十月一日～同二十八日）で開催される。

作品は、トム・トンプソン、アルフレッド・ペラン、アレックス・コルビーユ、マイケル・スノーなど、いずれも第一流の美術家の代表作で、カナダ国立美術館などに展示されているものばかり。展示会は特に東京国立近代美術館と朝日新聞社の尽力で実現した。

工業製品の輸入増大を要請 グレイ大臣が田中通産相に

田中通産大臣は、一月十二、十三の両日カナダを訪れ、グレイ通商大臣、マケッカン外務大臣、ラロンド・エネルギー・鉱山・資源大臣らと会談した。

グレイ、田中両大臣

グレイ・田中会談では、グレイ大臣がカナダの工業製品の対日輸出に若干進展があったことを評価しつつも、「日本はわが国に工業製品を売っているが、カナダの対日輸出はほとんどが天然資源。カナダの対日輸出額の三パーセント弱しか最終製品はない」として、輸出品の内容に不満を示した。

同大臣は、対日輸出に工業製品および加工度の高い資源の割合が増えることをカナダは重視している、またカナダはCANDU炉などいくつかのユニークな技術をもっている、と述べた。

これに対し、田中大臣は日本政府はCANDU炉の技術的側面について研究を始めている、と語った。